

【施策評価(平成30年度実績評価)】

施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力があふれるまちづくり
施策	11	歴史・文化の継承
施策主管部等	教育委員会	
評価責任者	豊岡 勝敏 教育部長	
評価シート作成者	大澤 浩 教育次長	

「施策の目的」と「施策評価全体を踏まえた評価責任者意見」

施策の目的(総合計画実施計画から転記)	施策評価全体を踏まえた評価責任者意見
地域に受け継がれている歴史や文化に誇りを持ち、次世代に伝えていくため、文化財の保護に取り組むとともに、市民が歴史や文化に理解を深め、身近に感じることができるように、文化財の幅広い活用を図る。	地域に受け継がれている歴史や文化に親しむこと、そして、それを次世代に継承することは、地域づくりにとって大切なことであるが、市民の関心は高くないと捉えている。周年イベントをきっかけとして、更に創意工夫、改善を図る必要がある。 また、博物館等施設については、市民が関心を持ち訪れてみたいと思うような魅力的な施設であり続けるよう、計画的に施設の修繕・改修・整備を行っていく必要がある。 今後も、市民が地域の歴史や文化に興味を持ち、施設の来館者の増加にもつながるよう、ソフト・ハード両面から、施策展開に努めたい。

施策の概要

主な取組内容
文化財の保護と活用については、文化財の指定により保護を行い、青少年郷土芸能フェスティバル等の開催を支援し、活用を図り、無形民俗文化財保持団体の一部では後継者が増加した。また、埋蔵文化財については、適切な調査・記録と保存・展示を行った。 地域の歴史的風致を守り、次世代へ継承するため、盛岡市歴史的風致維持向上計画を策定した。 博物館等施設の整備・充実については、各館とも事業の企画や案内周知に積極的に取り組み、9施設中、2施設で入館者が前年度より増加した。

対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(対象をどのようにしたいのか)
市民	地域に受け継がれている歴史や文化への関心が深まる。
文化財	地域に受け継がれている歴史や文化が保護、継承される。

施策の成果指標の状況・評価

実績値の推移				進捗の評価			
指標①	文化財数(国・県・市指定)	単 位 件	目指す方向 ↗	○ 順調に進捗している(R1目標値を達成する見込み) 指定の文化財は、前年度に比べ1件増えた。 既に指定となっている文化財等は存続できた。			
当初値(H25)	270	R1目標値	276				
※H28実績値に誤りがあったため修正している				○ 順調に進捗している(R1目標値を達成する見込み)			

進捗の評価(3段階):◎ 非常に順調に推移している(R1目標値を達成している), ○ 順調に推移している(R1目標値を達成する見込み), △ 遅れが生じている(R1目標値の達成が困難)

小施策評価を踏まえた「成果点・問題点」と「今後の方向性」

小 施 策	成果点・問題点	今後の方向性
11-1 文化財の保護と活用	<ul style="list-style-type: none"> 文化財の指定候補案件の調査が進み、新たに1件の文化財を指定したほか、補助金の支援等により文化財の保護が図られた。 有形文化財等において、周辺の環境も含め、適切な保存・修繕が難しくなっているものもある。 無形民俗文化財は、深刻な後継者不足に直面している団体もあり、民俗芸能保持団体の特性に応じた対策が必要となっている。 埋蔵文化財の出土資料は、増え続け、従来の施設には収まりきれず、仮設の施設にも仮置きしている状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化財等の保存・修繕のため、必要に応じて、町内会等地元住民への協力要請を行う。 盛岡市歴史的風致維持向上計画等に基づき、補助制度を活用しながら、文化財の保護と活用に取り組む。 民俗芸能保持団体の後継者不足について、盛岡市無形民俗文化財保存連絡協議会と連携しながら支援策を講ずる。また、地域における行事等を捉えて、発表の機会を確保し、民俗芸能の周知を図る。 埋蔵文化財発掘の出土資料を、活用頻度等により再配置を行うとともに、空き教室等を利用するなど、収蔵場所の確保を図る。 未指定の文化財も含め、文化財をまちづくりに生かすつ、地域社会との協働でその承継に取り組む必要があるため、文化財保存活用地域計画の策定の検討を行う。
11-2 博物館等施設の整備・充実	<ul style="list-style-type: none"> 原敬記念館及びもりおか歴史文化館の2施設では、施設の周年事業や国が推進した明治戊辰150年事業等の効果により入館者が増加し、その他の施設は減少し、9施設全体では横ばいとなった。 各施設とも施設・設備の老朽化が進み、修繕が必要な箇所が増え、来館者の受入環境が改善できない箇所がある。 入館者からは、魅力的でわかりやすい展示説明等をはじめ、使いやすい快適な施設環境の維持・整備が求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種企画展をはじめ、魅力的で話題性を捉えたイベントの開催のほか、各施設の情報案内・広報の強化を図るとともに、施設外へ出向く「出前講座」の充実に取り組む。 学校や他団体のイベント等と連携するなど、機会を捉えて幅広くPRを行い、利用促進を図る。 玉山歴史民俗資料館・石川啄木記念館の整備を進める。 施設や設備の修繕については、優先順位を検討し、計画的に対応していく。 文化財保存活用地域計画の策定に係る検討において、博物館等施設での保存・活用のあり方も検討していく。

【施策評価(平成30年度実績評価)】

施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力があふれるまちづくり
施策	12	芸術文化の振興
施策主管部等	市民部	
評価責任者	伊瀬谷 渉 市民部長	
評価シート作成者	山本 英朝 市民部次長	

「施策の目的」と「施策評価全体を踏まえた評価責任者意見」

施策の目的(総合計画実施計画から転記)	施策評価全体を踏まえた評価責任者意見
誰もが芸術文化に親しみ、豊かな生活が送れるように、優れた芸術を鑑賞する機会を提供するとともに、市民の自主的、創造的な芸術文化活動を支援する。	(公財)盛岡市文化振興事業団は、コンサートや演劇、美術展などの芸術鑑賞事業など芸術文化に親しむ機会を提供し、芸術文化活動の充実に努めている。 しかし、市民の価値観が多様化していることから、市民ニーズの把握に努めるとともに、それぞれの文化会館の特色を生かしながら、魅力ある事業展開に取り組む必要がある。 文化施設利用者へのサービスの向上のため、舞台設備更新調査を踏まえ、計画的に設備の更新、修繕を実施する必要がある。 また、市民の自主的・創造的な芸術文化活動が活発に行われるように、なお一層、文化施設の利用を図る必要がある。

施策の概要

主な取組内容	対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(対象をどのようにしたいのか)
<p>・平成30年3月に策定された「盛岡市芸術文化推進指針」に基づき、具体的な取組の内容等をまとめた「盛岡市芸術文化推進計画」の策定に取り組んだ。策定にあたり多様な活動団体からアンケート調査や意見交換により、幅広く意見、要望を聴取した。また、平成30年7月に設置した「盛岡市芸術文化推進審議会」にお諮りし、多角的かつ専門的な見地から意見を頂戴した。</p> <p>・盛岡芸術協会が主催する盛岡芸術祭を共催し、市民のすぐれた芸術文化活動の成果を発表する機会と広く市民に鑑賞の機会を提供するため支援した。</p> <p>・建設から20年以上経過し設備が老朽化している文化会館の計画的な施設修繕や更新のため、舞台設備更新調査を実施した。平成30年度は市民文化ホールと渋民文化会館を対象に実施した。</p>	<p>市民、芸術・文化に関わる人・団体</p> <p>芸術文化施設</p>	<p>芸術・文化活動について、鑑賞・参加できる機会が増える。</p> <p>芸術・文化活動の場(施設)として、より活用が促される。</p>

施策の成果指標の状況・評価

実績値の推移				進捗の評価		実績値の推移				進捗の評価	
指標①	単 位	目指す方向				指標②	単 位	目指す方向			
まちづくり評価アンケート調査「この1年間に何らかの芸術文化活動に参加した」と答えた市民の割合	%	↗			○ 順調に進捗している(R1目標値を達成する見込み)						
当初値(H25) 41.6	R1目標値 45.0	R6目標値 50.0			<p>・まちづくり評価アンケート調査「この1年間に何らかの芸術文化活動に参加した」と答えた市民の割合は微増である。</p> <p>・市民の価値観が多様化していることから、コンサートや演劇、美術展などの芸術鑑賞事業や各種講座などにより、芸術文化に親しむ機会を提供しており、盛岡市文化振興事業団の主催事業の鑑賞者数は増加した。</p> <p>・市民文化ホール展示ホールで開催の展示会の関連企画として、子ども向けのワークショップを開催し、親子で来場して楽しめるよう工夫した。</p>	当初値(H25)	R1目標値	R6目標値			

進捗の評価(3段階): ◎ 非常に順調に推移している(R1目標値を達成している), ○ 順調に推移している(R1目標値を達成する見込み), △ 遅れが生じている(R1目標値の達成が困難)

小施策評価を踏まえた「成果点・問題点」と「今後の方向性」

小 施 策	成果点・問題点	今後の方向性
12-1 芸術・文化活動の充実	<p>・(公財)盛岡市文化振興事業団が主催する鑑賞事業数は昨年並みだったが、人気作家や著名人の展示会の開催があり、多数の来場があった。</p> <p>・芸術文化活動の振興を図るため、自主的な活動を促進する機会として、盛岡芸術祭を共催しているが、盛岡芸術協会の構成員の高齢化により、参加・出展者数が減少傾向にある。</p>	<p>芸術文化団体等の自主的な芸術活動への支援を検討する。</p>
12-2 文化施設の整備と活用	<p>舞台修繕調査を行い、修繕箇所を把握した。一方、多額の費用がかかることが判明したが、財源がない。</p>	<p>舞台設備更新調査結果に基づき、緊急度が高い修繕について先行して着手しながら、同時に修繕計画を策定する。</p>

【施策評価(平成30年度実績評価)】

施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力があふれるまちづくり
施策	13	スポーツの推進
施策主管部等	市民部	
評価責任者	伊瀬谷 渉 市民部長	
評価シート作成者	山本 英朝 市民部次長	

「施策の目的」と「施策評価全体を踏まえた評価責任者意見」

施策の目的(総合計画実施計画から転記)	施策評価全体を踏まえた評価責任者意見
誰もがスポーツに親しみ、スポーツを通じて健康でいきいきと暮らすことができるように、スポーツをする環境やスポーツを支える環境づくりを進めるとともに、スポーツを通じたまちの魅力の創出などに取り組む。	市民が継続してスポーツを楽しむための利用環境の向上を図るため、施設の修繕を計画的に行うとともに、(公財)盛岡市体育協会を中心とした各競技団体や総合型地域スポーツクラブ、スポーツ推進委員等と連携を図りながら市民がスポーツを行う機会の提供を進めていく必要がある。 また、希望郷いわて国体・いわて大会の遺産(レガシー)を次世代に継承するため、ラグビーワールドカップ2019™の公認チームキャンプや東京2020オリンピック・パラリンピックに向けたカナダを相手国とするホストタウン事業を推進することで継続してスポーツの振興に取り組む。

施策の概要

主な取組内容
<ul style="list-style-type: none"> 全ての市民がスポーツに参画する機会の提供を目指し、(公財)盛岡市体育協会を中心とした各種競技団体やスポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブ等と連携し各種事業に継続的に取り組んだ。 市民が継続してスポーツを楽しめるよう、老朽化した施設の大規模改修を計画的に行い、利用者の利用環境の向上を図った。 東京2020オリンピック・パラリンピックのホストタウン事業として水球カナダの事前キャンプを受入れ、日本代表との合同合宿やエキシビジョンマッチを行うとともに、ラグビーワールドカップ2019™におけるナミビアの公認チームキャンプ地に決定した。

対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(対象をどのようにしたいのか)
市民	スポーツへの興味、関心が高まり、多くの市民がスポーツに参加している。
生涯スポーツに関わる団体・指導者	市民がスポーツに関わる機会を多く提供している。
スポーツ・レクリエーション施設	適切に配置され、充実した機能を備えている。
スポーツ団体等	団体の役割を明確にし、市民のスポーツ活動が活発に展開される環境を作る。
プロスポーツ団体	優勝するなど、市民のスポーツへの関心が高まるような成績を残す。
県内外のスポーツ競技団体	スポーツツーリズムとして本市に興味を持ち、国際大会、全国大会を開催する。

施策の成果指標の状況・評価

実績値の推移				進捗の評価			
指標①	単 位	目指す方向					
まちづくり評価アンケート調査「週1回以上スポーツをしている」と答えた市民の割合	%	↗	○ 順調に進捗している (R1目標値を達成する見込み)				
当初値 (H25)	31.1	R1目標値	56.0	R6目標値	71.0		
			<p>・「週1回以上スポーツをしている」と答えた市民の割合は、平成29年度、平成30年度と増加傾向にあるが、平成30年度においてスポーツの範囲が競技スポーツだけではなく健康づくりのために行うウォーキング(散歩等を含む)やラジオ体操等の運動も含む旨アンケートの項目を分かりやすく表記したことで、これまで判断を迷っていた方々を取り込むことができ、割合が増加したことが要因に挙げられる。</p>				

進捗の評価(3段階): ◎ 非常に順調に推移している(R1目標値を達成している), ○ 順調に推移している(R1目標値を達成する見込み), △ 遅れが生じている(R1目標値の達成が困難)

小施策評価を踏まえた「成果点・問題点」と「今後の方向性」

小 施 策	成果点・問題点	今後の方向性
13-1 ライフステージに応じたスポーツ活動等の推進	<ul style="list-style-type: none"> 市の事業数が平成28年度は希望郷いわて国体、希望郷いわて大会の開催により増加した。 平成29年度と平成30年度は国体開催前の事業数に戻っているが中間年の令和元年度の目標を上回っている。 各種スポーツ大会やスポーツ教室等に保護者と一緒に参加できるスポーツ機会の提供に努めた。 事業内容が類似・重複していないか検討する必要がある。 事業参加者は子供や高齢者の参加が多いが、働く世代参加者が少ない傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 希望郷いわて国体・希望郷いわて大会で生まれた有形・無形の様々な遺産(レガシー)を発展させ、着実に次世代に引き継ぐ取組が必要であり、市や(公財)盛岡市体育協会や各競技団体、総合型地域スポーツクラブが行っている各種スポーツ大会やスポーツ教室の周知促進を図る。 各種スポーツ団体と協議を行いながら、スポーツに親しむ機会の少ない人が気軽にスポーツに取り組めるよう努める。
13-2 スポーツ施設の整備充実	<ul style="list-style-type: none"> 大規模改修工事等の影響により、施設利用者数は、平成29年度より減少したが当初の利用者数より施設利用者は増加傾向にある。 利用者が快適に利用できるよう、不具合品や競技用具の更新のほか、施設を計画的に修繕する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設利用者増加につながる自主事業の拡大について指定管理者に要請する。 公共施設保有最適化・長寿命化計画の着実な推進を図る。 施設の維持管理に係る費用の確保について検討する。
13-3 スポーツ団体等との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> (公財)盛岡市体育協会や各競技団体、総合型地域スポーツクラブ等の事業数が微増となった。 各競技団体や総合型地域スポーツクラブへの活動支援が必要である。 総合型地域スポーツクラブは平成29年度に1団体増加したところであるが、目標達成が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> (公財)盛岡市体育協会や各競技団体、総合型地域スポーツクラブが各教室や大会を開催しやすいようにするため、連携を強化し、情報提供を行っていく。 総合型地域スポーツクラブの活動状況について継続して周知を図るとともに、人材確保に努める。 総合型地域スポーツクラブの創設に向けた研修会を開催する。
13-4 プロスポーツ等との連携	<ul style="list-style-type: none"> プロスポーツチームの会員数がJ・Bリーグとも減少傾向にある。 プロスポーツチームが市のスポーツ推進事業を受託した実績がない。 	<ul style="list-style-type: none"> 練習環境の確保、ホームゲームの開催、広報活動に係る支援を継続する。 プロスポーツ団体を受託者としたスポーツ推進事業及びプロスポーツ支援事業を検討する。
13-5 希望郷いわて国体・希望郷いわて大会の遺産の継承	<ul style="list-style-type: none"> ホストタウン事業として水球カナダ事前キャンプの受入れを行い、その中で日本代表との合同合宿やエキシビジョンマッチを行い、男女の試合合わせて1,864人が来場した。 東京2020オリンピック・パラリンピックやラグビーワールドカップ2019™では、選手と市民の交流に関して大会優先であるため、時間や場所の関係で希望する市民が参加できない場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ホストタウン事業を始めとした事前キャンプの受入れに際し市民交流や周知啓発の充実を図ることで、東京2020オリンピック・パラリンピック、ラグビーワールドカップ2019™の感動を共有し、希望郷いわて国体・希望郷いわて大会の遺産(レガシー)を未来へ継承していく。

【施策評価(平成30年度実績評価)】

施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力があふれるまちづくり
施策	14	「盛岡ブランド」の展開
施策主管部等	市長公室	
評価責任者	古舘 和好 市長公室長	
評価シート作成者	岡市 和敏 市長公室次長	

「施策の目的」と「施策評価全体を踏まえた評価責任者意見」

施策の目的(総合計画実施計画から転記)	施策評価全体を踏まえた評価責任者意見
<p>盛岡が住み続けたいまち、住んでみたいまち、訪ねてみたいまちとなるため、盛岡ならではの魅力や価値である「盛岡ブランド」を市民と共に磨き、育み、都市ブランドの確立を目指す。 さらに、効果的に市内外に発信することにより「盛岡ブランド」を展開する。</p>	<p>・小学校での授業参画やブランドフォーラムの開催などにより市民の関心を広げる取組を展開している。また外国人観光客の入込数は増加しているが、魅力度における順位が低下していることから、事業の効果を検証しながら新たな情報発信の手法を構築する必要がある。 ・ブランド推進計画の成果と課題を整理し、令和2年度から取組む新しい計画を策定しシティプロモーションの推進とシビックプライドの醸成に努める必要がある。</p>

施策の概要

主な取組内容
<p>・小学校の総合学習で盛岡ブランドを取り上げ、子どもたちの郷土愛の醸成を図った。 ・盛岡ブランドフォーラムやもりおか暮らし物語表彰により、市民への普及啓発を行った。 ・首都圏の若者世代を中心とした「対象者」に、盛岡の価値や魅力を伝えるプロモーション素材を作成し、それを活用したプロモーション活動を行った。 ・地域おこし協力隊の活動により、東京でのPR活動や、SNSを活用した情報発信の仕掛け作り、ウェブへの記事の提供などを行った。 ・関係人口を機軸とした移住・定住・交流人口対策事業として「盛岡という星で」プロジェクトを立ち上げ、新たなアプローチで情報発信やネットワーク形成を行った。</p>

対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(対象をどのようにしたいのか)
市民	盛岡への誇りや愛着を抱く。
市民以外の人	盛岡を知り、興味・関心を持ち、好きになる。
—	—
—	—

施策の成果指標の状況・評価

実績値の推移				進捗の評価			
指標①	まちづくり評価アンケート調査「盛岡が好き」と答えた市民の割合	単 位 %	目指す方向 ↗	◎ 非常に順調に進捗している(R1目標値を達成している)			
当初値(H25)	78.0	R1目標値	80.0	R6目標値	80.0		
				<p>・小学校との連携により授業参画を行った内容を、市内の小学校にリーフレットとして周知したことで、総合学習で盛岡ブランドを周知する機会が増加し、子どもたちの郷土愛の醸成を図ることができた。</p> <p>・ブランドフォーラムの開催時期や場所を変更したほか、ポスターを制作し行政施設での掲示を行うなど集客の増加に努めたことにより、盛岡ブランドフォーラムの参加者数が増加し、より多くの市民への普及啓発を行うことが出来た。</p> <p>・盛岡の価値や魅力を伝えるプロモーション素材を写真と動画の2種類を制作したことで、素材活用の幅を広げ多様なプロモーション活動を行うことができた。</p>			
指標③	観光客入込数	単 位 万人回	目指す方向 ↗	◎ 非常に順調に進捗している(R1目標値を達成している)			
当初値(H25)	472	R1目標値	500	R6目標値	520		
				<p>・東京盛岡ふるさと会との連携や盛岡デーでの発信、「盛岡という星で」プロジェクトなど、それぞれの活動に対し、訴求する相手方(ターゲット)を設定したことで、効果的な訴求につながった。</p> <p>・民間事業者などと連携し、ターゲットを明確にしたプロモーションの方向性を構築したうえで事業を実施した。</p> <p>・地元商店街等8団体が組織した「北上川に舟っこを運航する盛岡の会」が12名乗りの木造船を製作し、北上川において木造船「もりおか丸」による運航社会実験を実施することで、舟運復活への実現に向けた取組を市内外にPRができた。</p>			
指標②	地域ブランド調査「魅力度における盛岡市の順位」	単 位 位	目指す方向 ↗	△ 遅れが生じている(R1目標値の達成が困難)			
当初値(H26)	58	R1目標値	50	R6目標値	50		
<p>※H27に新しく設定した指標</p>				<p>・本指標は政令市や観光都市が上位を占める傾向にあるが、取組の成果が順位を押し上げるまでに至らなかった。</p> <p>・首都圏の若者世代を中心とした「対象者」に、盛岡の価値や魅力を伝えるプロモーション素材を作成し、それを活用したプロモーション活動を行ったほか、関係人口を機軸とした移住・定住・交流人口対策事業として「盛岡という星で」プロジェクトを立ち上げ、新たなアプローチで情報発信やネットワーク形成を行うなど、それぞれの活動に対し、訴求する相手方(ターゲット)を設定したことで、効果的な訴求につながった。</p>			
指標④		単 位	目指す方向				
当初値(H25)		R1目標値		R6目標値			

進捗の評価(3段階): ◎ 非常に順調に推移している(R1目標値を達成している)、○ 順調に推移している(R1目標値を達成する見込み)、△ 遅れが生じている(R1目標値の達成が困難)

小施策評価を踏まえた「成果点・問題点」と「今後の方向性」

小 施 策	成果点・問題点	今後の方向性
14-1 市民・事業者との意識共有	<p>・小学校との連携により、出前事業の実施校を増加させ、子どもたちの郷土愛の醸成を図ることができた。</p> <p>・盛岡の価値や魅力を伝えるプロモーション素材を写真と動画の2種類を制作し、素材活用の幅を広げ多様なプロモーション活動を行うことができた。</p>	<p>・市民の郷土愛の醸成するにあたり、年に1度のブランドフォーラムに拘らず、より効果的な手法を検討、実施する。</p> <p>・市民のシビックプライド醸成と市外に向けたプロモーションの考え方を整理し、令和2年度から取り組む新たな方針・戦略を策定する。</p>
14-2 情報発信の強化	<p>・訴求する相手方(ターゲット)を設定することで、より効果的な情報発信を行うことが出来た。</p> <p>・盛岡からの転出者や盛岡デーへの来訪者など、東京盛岡ふるさと会以外で盛岡と関わりがある人との継続的な連携が十分とは言えない。</p>	<p>・新たな情報発信の手法の試行や検証を通じて、市外において盛岡と関わりがある人と連携するための効果的な情報発信の手法を確立する。</p> <p>・東京圏の盛岡出身など縁のある方を対象にしほり、関係人口の創出の機会を増やす。</p>

【施策評価(平成30年度実績評価)】

施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力があふれるまちづくり
施策	15	良好な景観の形成
施策主管部等	都市整備部	
評価責任者	高濱 康亘 都市整備部長	
評価シート作成者	千田 敏 都市整備部次長	

「施策の目的」と「施策評価全体を踏まえた評価責任者意見」

施策の目的(総合計画実施計画から転記)	施策評価全体を踏まえた評価責任者意見
市民と共に、自然環境と歴史的環境とが調和した盛岡らしい魅力ある景観を保持するなど、良好な景観の形成を図る。	都市景観シンポジウム、都市景観賞等を開催し都市景観に関する意識の向上を図っているが、成果指標であるまちづくり評価アンケートの向上が見られない。都市景観シンポジウム、都市景観賞の内容の充実化等についても検討が必要である。 また、景観重要建造物等については、老朽化に対応するために計画的な改修を進める必要があるほか、屋外広告物については、制度が広く認識されていないことから市民等へ周知の方法を検討する必要がある。 なお、まちづくり評価アンケートの評価の低下の要因について把握に努める必要がある。

施策の概要

主な取組内容
都市景観シンポジウム、都市景観賞などを通し市民への景観に対する意識の向上を図り、景観計画区域行為届の審査・指導により良好な景観形成となるよう誘導し、併せて景観計画の周知を行った。 景観重要建造物、景観重要樹木等の維持保全を図り、市所有の保存建造物等を公開した。 屋外広告物の許可により、景観計画との整合と公衆への危害防止を図りながら、町内会・自治会を通じてチラシを配布するなどしたことにより、屋外広告物制度の周知を図った。

対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(対象をどのようにしたいのか)
街並み、山並み	優れた景観が守られる。 地域にあった景観になる。
市民・建築関係者	景観に対する意識が高まる。 地域の景観に沿った建物等を建設する。
—	—
—	—

施策の成果指標の状況・評価

実績値の推移				進捗の評価	
指標①	まちづくり評価アンケート調査「誇れる市街地の景観があると思う」と答えた市民の割合	単 位 %	目指す方向 ↗	△ 遅れが生じている(R1目標値の達成が困難)	
当初値(H25)	70.1	R1目標値	74.7	R6目標値	79.3
市所有の景観重要建造物等の公開により景観意識の向上を図っているが、老朽化が進み、計画的な改善が必要となってきた。また、建設費用の高騰などを背景に特徴的なデザインを取り入れるのではなく、画一的な建物の建設などが増える傾向が見られることも、誇れる市街地の景観があるとの評価につながらない一因と考えられる。					
指標②	まちづくり評価アンケート調査「誇れる田園や丘陵地の景観があると思う」と答えた市民の割合	単 位 %	目指す方向 ↗	△ 遅れが生じている(R1目標値の達成が困難)	
当初値(H25)	59.6	R1目標値	69.4	R6目標値	79.3
田園・丘陵地は新たな建造物等が建設されることが抑制される地域であるが、建設可能な新たな建造物等が建設される際においても景観に配慮するよう誘導しながら、今ある景観の維持、保全を図ることが必要である。					
指標③	まちづくり評価アンケート調査「誇れる山間地の景観があると思う」と答えた市民の割合	単 位 %	目指す方向 ↗	△ 遅れが生じている(R1目標値の達成が困難)	
当初値(H25)	69.9	R1目標値	74.6	R6目標値	79.3
山間地は新たな建造物等が建設されることが抑制される地域であるが、建設可能な新たな建造物等が建設される際においても景観に配慮するよう誘導しながら、今ある景観の維持、保全を図ることが必要である。					
指標④	まちづくり評価アンケート調査「屋外広告物(屋外に表示されているはり紙や看板など)は、景観に配慮して表示・設置されていると思う」と答えた市民の割合	単 位 %	目指す方向 ↗	△ 遅れが生じている(R1目標値の達成が困難)	
当初値(H25)	28.1	R1目標値	31.1	R6目標値	33.6
町内会・自治会を通じてチラシを配布するなどしたことにより、屋外広告物制度の周知を行ったが、まだ制度が広く浸透しているとはいえない状況であり、さらに屋外広告物の制度の周知を徹底し、適正な屋外広告物の設置を進める必要がある。					
指標⑤	まちづくり評価アンケート調査「盛岡市の景観について、改善したい景観がある」と答えた市民の割合	単 位 %	目指す方向 ↘	△ 遅れが生じている(R1目標値の達成が困難)	
当初値(H25)	20.6	R1目標値	17.4	R6目標値	14.8
改善したい景観が市街地、田園丘陵地、山間地のいずれであるかを把握する必要があるが、市街地においては景観に対する配慮が不足している建設等や、景観重要建造物等の老朽化による汚れ等により、次世代に継承すべき魅力ある盛岡固有の景観が失われつつあることも一因と考えられる。					
指標⑥		単 位	目指す方向		
当初値(H25)		R1目標値		R6目標値	

進捗の評価(3段階): ◎ 非常に順調に推移している(R1目標値を達成している), ○ 順調に推移している(R1目標値を達成する見込み), △ 遅れが生じている(R1目標値の達成が困難)

小施策評価を踏まえた「成果点・問題点」と「今後の方向性」

小 施 策		成果点・問題点	→	今後の方向性
15-1	景観保存対策の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・市所有の景観重要建造物を公開することにより、保存建造物の認識を高めた。 ・景観重要樹木の樹勢診断により、樹木の状態を把握することで適切な維持保全につながっている。 ・歴史的街並み整備事業の申請がなく、歴史的街並みの修景を進めることができなかった。 ・景観重要建造物の改修が進まず老朽化が進むことが、まちづくり評価アンケート調査において誇れる景観があると回答した割合が年々減少している要因のひとつと考えられる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・景観重要樹木について、より一層の樹勢診断等の活用を図り、枯渴のないよう維持保全に努める。 ・歴史的街並み整備事業の周知を図り、鉦屋町の歴史的街並みの修景を進める。 ・市所有の保存建造物の維持保全のため、計画的な改修を図る。
15-2	良好な景観形成の誘導	<ul style="list-style-type: none"> ・都市景観シンポジウム、都市景観賞等により市民の都市景観に関する意識の向上を図った。 ・屋外広告物制度の周知のため、町内会・自治会を通じてチラシを配布するなどしたが、広く浸透しているとはいえない状況である。 		<ul style="list-style-type: none"> ・市民がより一層盛岡の景観に興味を持ってもらえるよう、都市景観シンポジウムや都市景観賞の内容の充実を図る。 ・屋外広告物の制度の周知の方法を検討し、屋外広告物の適正化を継続的に取り組む。

【施策評価(平成30年度実績評価)】

施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力があふれるまちづくり
施策	16	計画的な土地利用の推進
施策主管部等	都市整備部	
評価責任者	高濱 康亘 都市整備部長	
評価シート作成者	千田 敏 都市整備部次長	

「施策の目的」と「施策評価全体を踏まえた評価責任者意見」

施策の目的(総合計画実施計画から転記)	施策評価全体を踏まえた評価責任者意見
<p>地域の特性をいかし、機能的で魅力的な都市を形成するため、自然環境の保全と人々の営みとの調和を考慮しながら、コンパクトで効率的な市街地を形成するなど、計画的で適正な土地利用を推進する。</p>	<p>目標に即した整備、開発、保全の方針が適切に図られているが、今後とも各種法令に基づく事務事業を円滑に進めていくとともに、適正な土地利用が図られるよう基準等の見直しが必要である。 また、人口減少、少子高齢化等が進行する中、高齢者や子育て世代が安心して快適な生活を送ることができる環境を実現するとともに、将来のまちのあり方について検討を進め、コンパクトで持続可能なまちづくりに資する立地適正化計画の策定を進める必要がある。</p>

施策の概要

主な取組内容
<p>都市計画法に基づく区域区分等の見直しに向けた都市計画基礎調査や開発許可制度、国土利用計画法に基づく土地取引事後届出制度、国土調査法に基づく地籍調査などにより、国土利用計画盛岡市計画や都市計画マスタープランに基づく適正な土地利用が図られた。</p>

対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(対象をどのようにしたいのか)
都市計画区域, 農用地区域, 森林区域	計画的に土地利用される。

施策の成果指標の状況・評価

実績値の推移				進捗の評価	
指標①	都市として計画的に整備し、開発し、保全する必要がある区域を指定する割合(市域における都市計画区域の割合)	単 位 %	目指す方向 →	◎ 非常に順調に進捗している(R1目標値を達成している)	
当初値(H25)	50.3	R1目標値	50.3		
				<p>・関連する上位計画や制度等の適切な運用及び関係施策や計画における相互連携による調整を図ったことから、目標に即した整備、開発、保全の方針が適正に図られている。 ・開発及び建築行為における申請前の窓口相談等において十分な指導を行っていることから、市街化区域及び市街化調整区域内の適正な土地利用が図られた。</p>	
指標②	農用地として保全し土地利用する割合(市域における農用地区域の割合)	単 位 %	目指す方向 →	◎ 非常に順調に進捗している(R1目標値を達成している)	
当初値(H25)	8.4	R1目標値	8.4		
				<p>・関連する上位計画や制度等の適切な運用及び関係施策や計画における相互連携による調整を図ったことから、目標に即した整備、開発、保全の方針が適正に図られている。 ・開発及び建築行為における申請前の窓口相談等において十分な指導を行っていることから、市街化区域及び市街化調整区域内の適正な土地利用が図られた。</p>	
指標③	森林として保全し土地利用する割合(市域における森林区域の割合)	単 位 %	目指す方向 →	◎ 非常に順調に進捗している(R1目標値を達成している)	
当初値(H25)	73.2	R1目標値	73.2		
				<p>・関連する上位計画や制度等の適切な運用及び関係施策や計画における相互連携による調整を図ったことから、目標に即した整備、開発、保全の方針が適正に図られている。 ・開発及び建築行為における申請前の窓口相談等において十分な指導を行っていることから、市街化区域及び市街化調整区域内の適正な土地利用が図られた。</p>	
指標④		単 位	目指す方向		
当初値(H25)					

進捗の評価(3段階): ◎ 非常に順調に推移している(R1目標値を達成している), ○ 順調に推移している(R1目標値を達成する見込み), △ 遅れが生じている(R1目標値の達成が困難)

小施策評価を踏まえた「成果点・問題点」と「今後の方向性」

小 施 策	成果点・問題点	今後の方向性
16-1 土地利用に関する計画の策定・見直し	<ul style="list-style-type: none"> 目標に即した整備、開発、保全の方針が適正に図られている。 将来における都市部及び農村部の生活サービス、コミュニティ、社会資本の衰退が懸念される。 将来における森林資源の保全維持管理を継続していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少、少子化、高齢化等の社会構造の変化に対応したコンパクトで持続可能なまちづくりに資するため立地適正化計画を策定し、「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりを推進する。 農用地や森林を生産機能の場として、また、豊かな自然景観や水源涵養資源として、保全・活用するよう市街地の集約化と相乗効果が得られるような総合的で計画的な土地利用を進める。
16-2 土地利用の管理・指導	<ul style="list-style-type: none"> 市街化区域及び市街化調整区域内の適正な土地利用が図られた。 開発許可及び建築許可の件数が多く、相談内容が多岐に及び時間を要するため相談者の待ち時間が増えている。 審査基準の緩和に関する相談や調査、資料収集が必要で、複雑な相談内容への対応に時間を要している。 	<ul style="list-style-type: none"> より効率的な窓口対応を図るため、説明資料等の工夫等を検討する。 市街化調整区域における開発許可基準については、地域の実情等に応じ、継続してその見直しについて検討していく。